



訓練概要（全部記入する必要はありません。想定する範囲で記入して下さい。）

## 1. 目的

場所を記入（例：〇〇施設の調理室等）から、火災等が発生した場合に、防火対象物の人的組織力、消防用設備等を効果的に使用して、人的、物的被害の軽減を図ることを目的に訓練を行うものである。

## 2. 想定

例：調理室の例：コンロから例：油鍋の過熱により出火し例：食堂へと延焼拡大したという想定。

## 3. 訓練内容と任務分担

### ア 第一発見者（職員の名前等を記入して下さい。）

火災を発見した例：事務職員、職員〇〇は、「火事だ～」と2回以上叫び周囲の者に火災の発生場所等を大声で知らせるとともに、例：1F事務所へ駆けつけ、又は例：携帯電話で例：1F事務所、職員〇〇に伝える。

※ 自動火災報知設備により火災を発見した例：夜間管理者、職員〇〇は、発生場所と警戒区域図を照合し現場を確認、その状況を例：防火管理者、施設長等へ知らせる。

### イ 通報係

例：火事の報告を受けた者、職員〇〇は現場を確認中であれば放送設備等を使用して予備放送を行う。

また、火災であれば火災の状況等を建物内に居る者に対して知らせるとともに、消防署へ火災発生場所、火災の状況、避難状況等を119通報する。

または、非常通報装置のボタンを押す。

（夜間想定等により、非常通報装置を押すだけの時はその旨を記載して下さい。）

（消防署へ通報する場合は、頭に訓練火災と2回言う。）

### ウ 初期消火係

例：職員〇〇以下例：3（人数）名は、例：食堂にある消火器と例：消火栓を使用して、初期消火体勢をとる。

（消火器は、15秒間・屋内消火栓は、30秒以上構える。）

消火活動後、火災状況を自衛消防隊長例：施設長へ報告する。

### エ 避難誘導係

例：職員〇〇以下（人数）名は、建物内に居る例：入居者に対して、火災現場から反対方向へ例：非常階段へ安全に避難誘導を行うとともに、逃げ遅れが居ないか確認し自衛消防隊長に報告する。

（確認場所としては、特に建物内のトイレ・防火シャッター等で区画される所など）

ホテルの場合；夜間は「火事だ～」と叫びながら、客室のドアを叩き実施し、廊下に出てきた客を避難口等安全な所へ誘導する。

### オ 救護係

例：職員〇〇以下（人数）名は、火災等によって負傷した（人数）名に応急処置を施し、保護するとともに、救急要請の要否を合わせて自衛消防隊長に報告する。

### カ 物品搬出係（具体的に必要がある場合）

例：主任保育士以下（人数）名は例：児童台帳の重要書類、非常持ち出し物品を安全な場所に搬出し、自衛消防隊長へ異常の有無を報告する。

### キ 警戒係

例：職員〇〇以下（人数）名は、建物内に延焼のおそれのある物件の管理と盗難、防火戸、消防用設備等の機能の保持を行い、その異常の有無を自衛消防隊長に報告する。

ク 自衛消防隊長例：施設長は、火災の状況を把握し、人命優先の上その指揮にあるとともに、公設消防隊が到着したら、出火場所、避難の状況、自衛消防活動状況、危険物等の報告を行う。